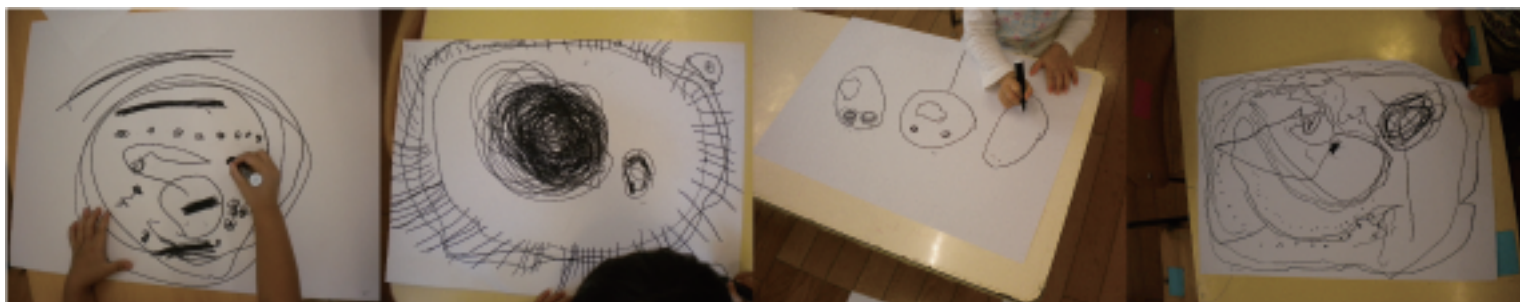




少し夏を感じる朝の時間。園庭で遊んでいる子どもたちに声をかける。おーい、大きな紙に絵を描こう!自分より大きな紙をみて、「オー」と声をあげるYくん。さっそく3歳児さんたちはクレパスを手に思い思いに線を描いてゆく。上から下へ、伸びやかな線を描く子。ひたすらぐるぐるを描いている子。それぞれが思いのまま世界を広げてゆく。1歳児さんたちも入って、沢山の美しい線が出来上がる。子どもたちに描いたものを聞いてみる。「大きなくじら」「おばけ」「船!」この小さな手は、今後どんなものを見せてくれるのか、思わず心がほっこりする。

子どもたちは遊びを見つける。大人なら「なんだ、そんな事」というような事でも、不思議でいっぱい。クレパスを手に塗っていたSちゃん。その手をじっと見て、私に満面の笑み。クレパスを黙々と窓のさんに並べている。「仲良く並んで電車みたいだね」シールとクレパスでお絵描き。「これ、とんがってる!鬼の角だよ」「このくにかくにゃ、蛇」「お月様があるんで」どんどん想いが形になっていくようで楽しい。



よく黒マジックでお絵描きをする。白と黒という単純な色調の中で、彼らの想いがはっきり伝わってくる。「お父さん、お母さん、私とMちゃん、みんな笑って」と言ったAちゃん。「これ雨なんで。この点々が雨で、ギザギザが雷なん」「町なか電車が走って。新幹線も走って」お話をしながら描く彼らの絵は、一本線が増えるたび、物語が変化して、まるで万華鏡。

保育参加での土粘土遊び。子どもたちは、土粘土特有の手触りや、形のつくりやすさを体験。お母さんたちも一緒になって体験してくれることで、より一層子どもたちの世界が広がっていくよう。お母さんがつくってくれたものを見せてくれた女の子。全身泥んこになっていた男の子。その笑顔はずっと残ってゆく宝物だ。